

2. 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

2-1-1 植生

流域の大部分は山地、丘陵地であり、滝上周辺が盆地上の地形で、上渚滑市街地より最下流部にかけて低地が分布する。

源流部(天塩岳～オシラネツ川合流点付近)の山麓部ではエゾイタヤ-シナノキ群落が多く分布し、山間部では、エゾマツやトドマツ、ダケカンバ等の混生する針広混交林が多く分布している。上流部の河畔林は、ミズナラやハルニレ、エゾイタヤ等も混生した針広混交林が分布し、中流部(オシラネツ川合流点付近～ウツツ川合流点付近)では、国内では分布が非常に限定される(渚滑川水系、十勝川水系、信濃川水系等)種であり、渚滑川を代表するケショウヤナギ群落が多く分布している他、上渚滑地点より上流は両岸が段丘となっており、ヤチダモ-ハルニレ群落が続いて分布している。下流部(ウツツ川合流点付近～河口)の河口部左岸の砂丘にはハマニンニクやハマナス等の砂丘植生が生育している。

流域内の貴重な植物群落として、天塩岳にはコケモモ、チングルマ、モウセンゴケなどの高山植物群落があり、滝上溪谷は林野庁が「人と森林とのふれあいの場」として自然休養林に指定されている。



写真 2-1 ヤチダモ-ハルニレ群落 (中流部)



写真 2-2 ケショウヤナギ群落
(ウツツ橋下流左岸)



写真 2-3 高山植物群落 (浮島湿原)



写真 2-4 滝上溪谷 (錦仙峡)

出典:北海道開発局・滝上町 HP



II. 亜寒帯、亜高山帯自然植生
Natural Vegetation in Vaccinio-Piceetea Region

- 22 エゾマツ-ダケカンバ群落
Picea jezoensis-Betula ermanii community
- 23 ササ-ダケカンバ群落
Sasa spp.-Betula ermanii community
- 24-25-26 ダケカンバ-ハイマツ群落 ダケカンバ-イワノガリヤス群落 ミヤマハシノキ-ダケカンバ群落
24 Pinus pumila 25 Calamagrostis langsdorffii 26 Alnus maximowiczii
-Betula ermanii community -Betula ermanii community -Betula ermanii community
- 28 ササ自然草原
Sasa spp. community

III. 亜寒帯、亜高山帯代償植生
Substitutional Communities in Vaccinio-Piceetea Region

- 32 ササ群落
Sasa spp. community
- 34 ダケカンバ群落
Betula ermanii community
- 36 伐採跡地に成立した二次林
Substitution forest in clear-cut area

IV. ブナクラス域自然植生
Natural Vegetation in Fagetea crenatae Region

- 38 下部針広混交林
Picea jezoensis, Abies sachalinensis-Quercus mongolica var. grosseserrata,
Tilia japonica, Acer mono forest
- 42 エゾイタヤ-シナノキ群落
Acer mono var. glabrum-Tilia japonica community

V. ブナクラス域代償植生
Substitutional Communities in Fagetea crenatae Region

- 66 ミズナラ-カシワ-コナラ群落
Quercus mongolica var. grosseserrata-Quercus dentata-Quercus serrata community
- 70 シラカンバ-ササ群落
Sasa spp.-Betula tauschii community
- 73 チシマザサ-クマイザサ群落
Sasa kurilensis-Sasa senanensis community
- 78 伐跡群落
Plant communities in clear-cut area
- 81 伐採跡地に成立した二次林
Substitution forest in clear-cut area

IX. 植林地、耕作地植生(各クラス域共通)
Plantation and Cultural Land

- 101 トドマツ植林
Abies sachalinensis plantation
- 103 落葉針葉樹植林
Deciduous conifer plantation
- 110 畑地
Field
- 112 牧草地
Cultivated meadow

X. その他
Others

- 120 緑の多い住宅地
Urban and residential district with many trees

図 2-1 渚滑川植生図

出典:環境省自然環境保全基礎調査

2-1-2 哺乳類

渚滑川流域に生息する哺乳類は、平成 17 年度の河川水辺の国勢調査によると、オオアシトガリネズミ、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、キタキツネ、エゾシカ等の 9 科 13 種が報告されている。特にエゾヤチネズミ、エゾアカネズミが多く生息しており、河川敷の草地環境がトガリネズミ類、ネズミ類の生息環境となっている他、中流部の山付き区間ではエゾアカネズミ、エゾリス、エゾシカ等の森林性の種が確認されている。また、河畔林に接する草地内でイイズナが確認されており、本種の餌となるネズミ類が多数生息していることから、良好な環境となっていると考えられる。

平成 17 年度の調査では特定種は確認されていない。



写真 2-5 エゾアカネズミ



写真 2-6 イイズナ

出典：北海道開発局

2-1-3 鳥類

渚滑川流域に生息する鳥類は、平成 16 年度の河川水辺の国勢調査によると、31 科 94 種の鳥類が報告されている。

生息環境別では、海辺鳥類は、ウミウ、ウミアイサ、オオセグロカモメ、ウミネコ等が確認され、水辺鳥類は、アオサギ、マガモ、コガモ、ホオジロガモ、カワアイサ等が確認され、河口付近はカモ類、シギ・チドリ類の休息地、採餌地となっている。草原性鳥類は、ヒバリ、ノビタキ、コヨシキリ、オオジュリン等が確認され、橋桁がイワツバメの集団営巣地となっている。森林性鳥類は、アカハラ、キビタキ、アカゲラ、センダイムシクイ、シジュウカラ等であり、山付き区間に多く生息している。また、山付き部の河畔林にはオジロワシ、オオワシが多く集まっており、中州等でサケ・マス類を採餌する等、越冬地や渡りの中継地として重要な生息環境となっている。

特定種は、オシドリ、オジロワシ、オオワシ、オオジシギの 4 種が確認されている。



写真 2-7 オシドリ



写真 2-8 オジロワシ

出典：北海道開発局

2-1-4 両生類・爬虫類

渚滑川流域に生息する両生類・爬虫類は、平成17年度の河川水辺の国勢調査によると、両生類はアマガエル、エゾアカガエルの2科2種、爬虫類はアオダイショウの1科1種が報告されている。渚滑川沿川には、ワンドや湧水の水溜まり等のほか、樋門水路や堤内排水路等の人為的に作られた水域や道路上の水溜まりも多く、これらがカエル類の繁殖場所となっている。



写真 2-9 アマガエル



写真 2-10 エゾアカガエル

出典:北海道開発局

2-1-5 魚類

渚滑川に生息する魚類は、平成15年度の河川水辺の国勢調査によると、ヤツメウナギ科、コイ科、ドジョウ科、キュウリウオ科、サケ科、トゲウオ科、カジカ科、ハゼ科及びカレイ科の9科20種が報告されている。純淡水魚は、エゾウグイ、フクドジョウ、ニジマス、トミヨ、ジュズカケハゼが、回遊魚は、カワヤツメ、マルタ、ウグイ、ワカサギ、サケ、カラフトマス、サクラマス、イトヨ日本海型、カンキョウカジカ、エゾハナカジカ、シマウキゴリ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、汽水・海水魚はアシシロハゼ、ヌマガレイの2種が確認されている。

特定種は、カワヤツメ、マルタ、エゾウグイ、サクラマス（ヤマメ）、イトヨ日本海型、エゾハナカジカが確認されている。



写真 2-11 エゾハナカジカ



写真 2-12 サクラマス(ヤマメ)

出典:北海道開発局

2-1-6 昆虫類

渚滑川流域に生息する昆虫類は、平成 17 年度の河川水辺の国勢調査によると、クモ類 1 目 19 科 84 種、昆虫類 13 目 141 科 781 種、合計 865 種が報告されている。高水敷が広く牧草地として利用されている下流部では、カメムシ目が多く確認されている。ヤナギ等の河畔林やオオヨモギーオオイタドリ等の草本群落、さらには山付き区間を含む中流部では、チョウ目、コウチュウ目が優先しており、道東部の他の河川では確認の少ないスギタニルリシジミが多数確認されている。また、スジミズアトキリゴミムシ、ヒモハンショウモドキ、カワラゴミムシ等、河原に生息する種が多く確認されている。

特定種は、カバヒラタカメムシ、ゴマシジミ北海道東部亜種、ヒョウモンチョウ北日本亜種、ヒメギフチョウ北海道亜種、チビコガシラミズムシ、ケマダラカミキリ、ウスキモモフトハバチの 7 種が確認されている。



写真 2-13 スギタニルリシジミ



写真 2-14 ウスキモモフトハバチ

出典：北海道開発局

渚滑川で確認された特定種

渚滑川（植物；H14）

No.	区 分	種名（和名）	貴 重 性				
			文化財保護法	種の保存法(絶滅法)	環境省(2007)レッドリスト	環境庁(2000)レッドデータブック	北海道(2001)レッドデータブック
1	植物	ケショウヤナギ				VU	R
2		ノダイオウ			NT	VU	
3		フクジュソウ				VU	Vu
4		エゾキンボウゲ				CR	
5		エゾネコノメソウ				EN	
6		カラフトイバラ					R
7		エゾリリソウ			CR	CR	
8		バアソブ			VU		
9		ホロマンノコギリソウ			VU	VU	
10		ヒメウキガヤ					R
11		アカンカサスゲ					R
12		ウスイロスゲ				VU	
13		エゾサウスゲ			NT	VU	

渚滑川（哺乳類；H17）

No.	区 分	種名（和名）	貴 重 性				
			文化財保護法	種の保存法(絶滅法)	環境省(2007)レッドリスト	環境省(2002)レッドデータブック	北海道(2001)レッドデータブック
1	哺乳類	カラフトアカネズミ					N

渚滑川（鳥類；H16, H11）

No.	区 分	種名（和名）	貴 重 性				
			文化財保護法	種の保存法(絶滅法)	環境省(2006)レッドリスト	環境省(2002)レッドデータブック	北海道(2001)レッドデータブック
1	鳥類	ヒメウ			EN		
2		オシドリ			DD		R
3		シノリガモ			LP	LP	R
4		ミコアイサ					Vu
5		ミサゴ			NT	NT	Vu
6		オジロワシ	天	国内	EN	EN	En
7		オオワシ	天	国内	VU	VU	En
8		ハイタカ			NT	NT	Vu
9		ハヤブサ		国内	VU	VU	Vu
10		エゾライチョウ			DD	DD	R
11		オオジシギ			NT	NT	R
12		ヨタカ			VU		R
13		シマアオジ			CR	NT	R

渚滑川（魚類；H15, H9）

No.	区 分	種名（和名）	貴 重 性				
			文化財保護法	種の保存法(絶滅法)	環境省(2007)レッドリスト	環境省(2003)レッドデータブック	北海道(2001)レッドデータブック
1	魚類	スナヤツメ			VU	VU	
2		シベリアヤツメ			NT	NT	R
3		カワヤツメ			VU		
4		マルタ					N
5		エゾウグイ					N
6		サクラマス			NT		N
7		ヤマメ			NT		N
8		イトヨ日本海型					N
9		トミヨ			NT		
11		ハナカジカ					N
10	エゾハナカジカ					N	

渚滑川（底生動物；H15）

No.	区 分	種名（和名）	貴 重 性				
			文化財保護法	種の保存法(絶滅法)	環境省(2000)レッドリスト	環境省(2005)レッドデータブック	北海道(2001)レッドデータブック
1	底生動物	モノアラガイ			NT	NT	

渚滑川（陸上昆虫類；H18）

No.	区分	種名（和名）	貴重性				
			文化財保護法	種の保存法（絶滅法）	環境省（2007）レッドリスト	環境省（2006）レッドデータブック	北海道（2001）レッドデータブック
1	昆虫類	カバヒラタカメムシ			DD	NT	
2		ゴマシジミ北海道東亜種			VU	VU	N
3		ヒヨウモンチョウ北日本亜種			NT	NT	N
4		ヒメギフチョウ北海道亜種			NT	NT	R
5		チビコガシラミズムシ					R
6		ケマダラカミキリ				NT	N
7		ウスキモモトハバチ					R

出典：河川水辺の国勢調査（H9～H18）

重要種指定区分

【文化財保護法】

文化財保護法（昭和25年法律第214号）

天：天然記念物

【種の保存法】

絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）

国内：国内希少野生動植物種

【環境省（庁）改訂RDB】

環境省自然保護局野生生物課 編「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—

哺乳類（2002）、鳥類（2002）、爬虫類・両生類（2000）、汽水・淡水魚類（2003）、昆虫類（2006）、陸・淡水貝類（2005）、クモ形類・甲殻類等（2006）、植物I（維管束植物）、植物II（維管束植物以外）」（財）自然環境研究センター

CR：絶滅危惧IA類

EN：絶滅危惧IB類

VU：絶滅危惧II類

NT：準絶滅危惧

DD：情報不足

LP：地域繁殖個体群（東北地方以北のシノリガモ繁殖個体群）

【環境省改訂RL】

環境省「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト

哺乳類（2007）、鳥類（2006）、爬虫類（2006）、両生類（2006）、

汽水・淡水魚類（2007）、貝類（2007）、

昆虫類（2007）、その他の無脊椎動物（甲殻類等）（2006）、植物（2007）」

CR：絶滅危惧IA類

EN：絶滅危惧IB類

VU：絶滅危惧II類

NT：準絶滅危惧

DD：情報不足

LP：地域繁殖個体群（東北地方以北のシノリガモ繁殖個体群）

【北海道RDB】

北海道環境生活部環境室自然環境課 編（2001）

「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001」北海道

Cr：絶滅危機種

En：絶滅危惧種

Vu：絶滅危急種

R：希少種

N：留意種

2-2 河川及びその周辺の自然環境

1) 上流部（源流部～オシラネツ川合流点付近）

源流からオシラネツ川合流点付近に至る上流部の山間部では、エゾマツやトドマツ、ダケカンバ等の混生する針広混交林が広く分布している。山間部を抜けると大小さまざまな滝が連なり、明瞭な瀬・淵がある一方、岩河床が露出している箇所もみられ、流れの多様な溪流河川を形成し、サクラマス(ヤマメ)等の魚類が生息している。



写真 2-15 渚滑川上流の渓谷（滝上町）

写真出典：国土交通省河川局 HP

2) 中流部（オシラネツ川合流点付近～ウツツ川合流点付近）

オシラネツ川合流点からウツツ川合流点に至る中流部は、蛇行を繰り返しながら牧草地、畑地帯を流下し、明瞭な瀬・淵やワンド、湧水等がみられ、多様な河川環境となっている。山地と連続した河岸には砂礫質の砂州が形成され、渚滑川を代表するケショウヤナギ群落が多く分布している他、上渚滑地点より上流は両岸が段丘となっており、ヤチダモ・ハルニレ群落が続いて分布している。山付き部の河畔林には国の天然記念物に指定されているオジロワシ、オオワシ等が多く集まっている他、シジュウカラ、アオジ、ヤマゲラ等の森林性の鳥類が生息している。また、水辺では、アオサギ、オシドリ、カワアイサ、カワセミ等の水辺を利用する鳥類が生息・繁殖している。魚類ではエゾウグイ、フクドジョウ、トミヨ等が生息している他、サケ、サクラマス、カラフトマスの遡上が見られ、幼生期にサケ科魚類の鰓に寄生するカワシンジュガイが生息している。



写真 2-16 KP21.0 付近より上流

（両岸はヤチダモ・ハルニレ群落）



写真 2-17 KP 8.0 付近より上流

（左岸はケショウヤナギ群落）

3) 下流部（ウツツ川合流点付近～河口）

ウツツ川合流点から河口までの下流部は、大きく蛇行して牧草地帯、渚滑地区を流下し、河口に至っている。中流部から連続する山付き部の河畔林にはオジロワシ、オオワシが多く集まっており、中州等で遡上してきたサケ・マス類を採餌する姿が見られる等、越冬地や渡りの中継地として重要な生息環境となっている。広い高水敷は採草地として利用されており、オオジシギ、ヒバリ等の草原性の鳥類が生息・繁殖している。また、魚類ではカワヤツメやイトヨ日本海型、エゾハナカジカ等の回遊性の魚類が生息している。

河口付近の緩やかな流れは感潮域となっており、ヌマガレイ等の汽水性の魚類が生息している他、マガモやコチドリ等のカモ類、シギ・チドリ類の休息地、採餌地、ショウドウツバメの営巣地となっている。また、河口部左岸の砂丘地にはハマニンニクやハマナスの砂丘植生が生育している。



写真 2-18 KP 5.0 付近より上流



写真 2-19 渚滑川河口部

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

2-3-1 景観・景勝地

流域の上流部では、清流や渓谷美、河岸の緑と水面が形成する美しい自然景観に恵まれているとともに、滝上町の市街地を流れる渓谷は、「錦仙峡」と呼ばれ「北海道観光百景」に選ばれたこともある景勝地で洛陽の滝、白亜の滝など大小さまざまな滝が連なっている。また、サクール川合流点の「虹の橋」は、国鉄渚滑線の鉄橋を再生したもので、全国的にも珍しい2階建ての橋であり、一面ピンク色で覆われる滝上公園の芝桜と渓谷が眺められ、季節を通して観光ポイントとなっている。

中流部は、切り立った峡谷を抜け、発達した河岸段丘を流れ、瀬・淵が明瞭であるとともに、上渚滑より平野部に出て蛇行しながら流れ、砂州の発達で自然裸地が分布する。河川周辺は牧草地、畑地帯となっており、周辺環境と調和した良い河川景観となっている。

下流部では、河道は緩やかに蛇行して流れ、高水敷は牧草地として広く利用されている。河口部市街地の北西に位置する海岸線にオホーツクの夏を色鮮やかな花たちが彩るオムサロ原生花園がある。



写真 2-20 錦仙峡



写真 2-21 白亜の滝



写真 2-22 洛陽の滝



写真 2-23 虹の橋



写真 2-24 滝上公園

写真出典：滝上町 HP

表 2-1 主な観光対象

項目	市町村名	名称	内容
原生花園	紋別市	オムサロ原生花園	市街地の北西、渚滑川をはさんだ海岸線に1キロにわたって続く花園、オムサロ原生花園。オホーツクの夏を色鮮やかな花たちが彩る自然の宝庫。真紅のハマナスをはじめとする約50種もの美しい原生の草花があり、たまに、シロバナハマナス（白い花びらのハマナス）が見られる。また、冬は流水を眺望することができ、釣客にも人気のスポットとなっている。
公園	紋別市	オムサロ遺跡公園	国道近くの丘陵地帯にある北海道指定史跡のオムサロ遺跡公園。縄文時代早期から続縄文時代、オホーツク文化時代、擦文時代、アイヌ時代と一万年もの間にとぎれることのない各時代の生活の痕跡が残されている。現在でも埋もれきれずに先住民族の竪穴式住居跡が208軒も残されている。遙かかなたのサハリンより流水の海を渡ってやってきた北方民族の遺跡もある。
	紋別市	大山山頂園	標高334mに位置する大山山頂園は紋別の街並みとオホーツク海を一望できる紋別でも最も見晴しの良いスポット。山麓から山頂園までの遊歩道はバードウォッチング、森林浴、植物観察など楽しめる4つのコースがある。園内にはオリエンテーションや宿泊に利用できるレストハウスやコテージもあり、休日を利用して家族で、又は仲間達で気軽にアウトドアを満喫できる。
	滝上町	芝ざくら公園	遠くの山々には、まだうすらと雪が残る5月中旬から6月上旬にかけて山全体がピンク色に染まる、芝ざくらが一斉に咲き揃う。約10万m ² の広大な公園に、紅赤、ピンク、白など色とりどりに咲く芝ざくらの迫力はまるでピンクの絨毯のよう。
	滝上町	香りの里ハーブガーデン	ハーブの甘い香りいっぱいの渓谷公園には、4万m ² の香りの里ハーブガーデンがあり、5百種以上のハーブが7月から9月にかけて咲きそろう。丘の上に建つ「フレグランスハウス」ではハーブティーはもちろん、スパゲティーやソーセージなど軽食も楽しめます。
観光ポイント	滝上町	「我が家のガーデン」	滝上は現在ガーデニングが盛んに行われている。商店街、住宅街では、各家庭の庭、窓、壁等が個性あふれるガーデニングで飾られ、訪れる人の目を楽しませている。コンテストも開催されており、参加者達は毎年工夫を凝らしながら、家々を花いっぱい飾っている。8月30日まで開催されているが、9月中旬ころまで綺麗な花々を楽しませてくれることだろう。
	滝上町	虹の橋	町の中央にあつて渚滑川にかかっている。ロンドンブリッジのような英国風の橋で、旧渚滑線鉄道橋を、下55m、上が65mの2層構造で改築、その床下から流れ落ちる水は太陽の光の向きによっては本物の虹を見ることが出来る。季節を通して、山も川も街並みもとても美しく見える場所。
秘境	滝上町	錦仙峡	秋になり、渓谷沿いの遊歩道をあざやかな樹々を眺めながら散歩すると色々な滝が現れ、それぞれに名前が付いており燃えるような紅葉の中、渓谷の激しい水の動きの中に静かで美しいコントラストを描く。
	滝上町	浮島湿原	標高850mの浮島湿原は、浮島トンネルのすぐ近くから登れるようになっており、700ha周囲を高山植物に囲まれた湿原の中に大小無数の沼があり、その中を漂う湿原は秘境そのもの。
道の駅	滝上町	香りの里たきのうえ	国道沿いの町の入り口にあり、滝上の特産品がいっぱい。「オホーツク漆器」を始め、木製品は筆筒などの大型家具から小物の生活用品まで揃っている。地元特産品も多数あり、女性に人気の土産品芝ざくら香水の「夢幻」、香水の他、オードトワレもある。「からくり時計」がありメルヘンの世界のお姫様がオルゴールの音色を奏でる。
体験施設	滝上町	キューパレス	「香りの里 ハーブガーデン」の中にあり、ポプリやリース、サシェなどの作り方を教えてもらえる。
	滝上町	童話村交流プラザ	滝上町の市街地を流れる渚滑川とその支流であるサクルー川の合流点に、滝上町多目的活性化センター「童話村交流プラザ」がある。「童話村をテーマとしたまちづくり」の拠点として人・物・情報が様々な形でふれあうことで農林業の振興や住民の憩い、健康づくりを目的とした施設。浴場、多目的ホール、情報コーナー、軽食喫茶、研修室、視聴覚室があり幅広く利用されています。特に浴場はサウナもあり公衆浴場料金で利用できる、家族中心に人気がある。
	滝上町	郷土資料館	明治38年に滝上町は開拓された歴史を元に、生活歴史館、郷土資料館、SL館からなっており、開拓当時から使われていた生活用品、道具類の展示や復元家屋もある。
恒例イベント	滝上町	芝ざくらまつり (毎年5月中旬～6月上旬)	毎年滝上公園で行われる「芝ざくらまつり」は、約1ヶ月間の日程で色々なイベントが行われる。又、その他にヘリコプターの遊覧飛行や全道カラオケ大会、歌謡ショー、ヨサコイソーラン等でこの時期、まちは芝ざくらで一色になる。
	滝上町	童話村たきのうえ「夏に恋まつり」(8月)	イベントや花火大会、よさこいチームによる迫力ある踊り。



図 2-2 渚滑川流域の主な観光施設位置図

2-3-2 文化財

渚滑川流域には歴史的に重要な文化財、史跡は、表 2-2に示すとおり、道指定が 2 件(内 1 件は北海道遺産)の文化財がある。

表 2-2 指定文化財

指定の種類	名称	所在地 指定年月日	概要
道	オムサロ台地堅穴群	紋別市 昭和39年10月3日	オホーツク海に面した海岸段丘地帯に位置し、縄文時代早期から続縄文時代、オホーツク文化時代、擦文時代、アイヌ時代と1万年もの間の生活の痕跡が残されている。計3地区208軒の竪穴住居跡。現在はオムサロ遺跡公園として整備され、擦文時代の復元住居や当時アイヌの人々が食用としたオウバユリなどを見る事が出来る。
北海道遺産	流水とガリンコ号	紋別市など	紋別市ではアラスカの油田開発用に試験的に作られた砕氷船を「ガリンコ号」と名付け、流水の海へ乗り出した。沖合約1kmのオホーツクタワーでは、海底7.5mから流水下のさまざまな生態の観測ができる。紋別市は流水研究国際都市を宣言し、流水の大切さを訴えている。

2-4 自然公園等の指定状況

渚滑川流域は自然環境に恵まれた地域が数多く存在しており、これらの保護・保全管理が図られている。渚滑川水系における自然公園等の法令指定状況は以下のとおりである。

2-4-1 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(平成14年度法律第88号)に基づく鳥獣保護区

3ヶ所で鳥獣保護区の指定がなされている。

表 2-3 各種保護地域指定一覧

整理番号	市町村	鳥獣保護区名	区域	存続期間	備考
173	滝上町	滝美	紋別郡滝上町の国有林滝上営林署206林班、207林班及び208林班の区域	平成7年10月1日～ 平成27年9月30日	森林鳥獣生息地 666ha
174	滝上町	滝奥	紋別郡滝上町に所在する国有林網走西部森林管理署西紋別支署143林班のうち、いからるまで、イからトまでの各小班、144林班いからはまでの各小班、145林班いからるまで、イからハまでの各小班的区域及び国道273号の道路敷地のうち、同143林班、145林班を横断する区間の区域	平成17年10月1日～ 平成37年9月30日	森林鳥獣生息地 709ha
175	紋別市	紋別	紋別市に所在する紋別市有林177林班1から26の各小班、178林班1から34の各小班、第179林班1、3から11、13、15、22、35、38、44、45、55、59、63の各小班及び202林班1から17の各小班並びに紋別市大山町4丁目25番3から5までの区域	平成16年10月1日～ 平成26年9月30日	森林鳥獣生息地 484ha

※ 平成17年度鳥獣保護区等位置図(別冊編)より

2-4-2 道立公園

(1) 天塩岳道立自然公園

天塩岳道立自然公園の区域は、士別市、上川町、滝上町、西興部村の1市3町1村にまたがっており、面積は9,369haとなっている。

北見山地に属する連峰により構成された山岳を主体とした自然公園で、1978年1月6日に道立自然公園に指定されている。

天塩岳の周辺は道内でも有数の高山植物の植生地として知られており、また山頂部ではナキウサギもみられるなど、動植物の宝庫となっている。



图 2-3 鳥獣保護区・狩猟禁止区域

2-5 市民活動

渚滑川の環境を守るため、河川管理者と一緒に地域住民の方々のボランティアによる清掃活動を実施している。

また、滝上町では、国内で初めて「キャッチアンドリリース区間」が設け、溪流釣りの魅力ある川づくりを推進している。この取り組みには強制力はなく、町が釣り人に対して協力と理解を求めるとして実施しており、今では多くの釣り人に浸透し、キャッチアンドリリースが定着しつつある。平成7年に国内ではじめて滝上市街地から紋別市方面に向かって車で10分ほどの^{しずめばし}鎮橋から、滝上町、紋別市の境界にある^{かいめいばし}開明橋までの約8kmを設定し、平成9年には下流8km区間の延長として、滝上橋から滝西堰堤16kmが設定されている。



図 2-4 渚滑川 キャッチアンドリリース区間